

押さえておきたい ヘルスケア単語集 厳選10



◆留意事項

【投資信託のリスクとお客さまにご負担いただく費用について】

◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債およびリート等の値動きのある証券を投資対象としているため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動します。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資にあたっては投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等をよくご覧ください。

◎投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

■購入時（ファンドによっては換金時）に直接ご負担いただく費用

■購入時（換金時）手数料…上限 3.3%（税込）

※一部のファンドについては、購入時（換金時）手数料額（上限 38,500円（税込））を定めているものがあります。

■購入時・換金時に直接ご負担いただく費用

信託財産留保額…ファンドにより変動するものがあるため、事前に金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を表示することができません。

■投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

運用管理費用（信託報酬）…上限 年率3.41%（税込）

※一部のファンドについては、運用実績に応じて成功報酬をご負担いただく場合があります。

その他の費用・手数料…上記以外に保有期間等に際してご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等でご確認ください。

※その他の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

上記の費用（手数料等）については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計金額等を記載することはできません。

【ご注意】

上記のリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三菱UFJ国際投信が運用するすべての公募投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際は、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等をご覧ください。

「本資料に関してご留意頂きたい事項」

■本資料は、ヘルスケアに関連する用語を説明するために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。

■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

■投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しの最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

三菱UFJ国際投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

世界の医薬品売上高に占める
バイオ医薬品の比率の予測^{※1}

2024年

50%

バイオ医薬品の存在感が高まる。今後も難治療分野への展開が見込まれる。

バイオ医薬品

バイオ医薬品は、有効な治療法がない疾病への医療ニーズ「アンメットメディカルニーズ」に応える治療薬として多くの患者に希望をもたらしてきました。バイオ医薬品は、バイオテクノロジーを活用して製造したタンパク質を有効成分とした医薬品で、一般的な医薬品（低分子医薬品）と比べ複雑な構造をしているという特徴があります。そのため、製造工程にはより厳密な管理が必要となる一方で、こうした医療ニーズに応えることが可能となります。1990年代後半から大型の新薬開発が進んだバイオ医薬品は、世界の医薬品売上高の半分を占めるまで存在感を高めており、さらなる発展が期待されています。

ウェアラブル端末

身に付けるタイプの医療機器であるウェアラブル端末の開発が進んでいます。例えば糖尿病治療では皮膚に貼り付けることで24時間血糖値の変動を記録する持続血糖測定装置も発売されています。スマートフォンに接続して計測結果を表示できるものもあり、患者のQOL（生活の質）向上が望まれています。その他にも、検出が極めて難しい不整脈は、スマートフォン対応埋め込み型心臓モニタにより医師が遠隔で診断することが可能になりました。

日本のデジタルヘルス
関連市場規模予測^{※3}



2018年から2024年にかけて市場規模は約7倍に増加すると予測される。

ゲノム

2003年のヒトゲノム解読宣言は、ゲノム情報を用いた創薬を活性化のきっかけとなりました。以前より多くの病気が遺伝子と関係していることは知られていましたが、個別に遺伝子を調べていくのが主流でした。遺伝子とは親から子へと受け継がれる情報のことで、その具体的な物質はDNA（デオキシリボ核酸）と呼ばれています。ゲノムはこのDNAに含まれる遺伝情報すべてのことを指し、ヒトゲノム（人のすべての遺伝情報）が明らかにになったことで遺伝情報を網羅的に創薬に利用することが活発になりました。また最近では、遺伝情報を活用することで一人ひとりに合った薬や治療法を選ぶことのできる「オーダーメイド型医療」の実現化が予測されています。

次世代シーケンサー

次世代シーケンサーの登場によりゲノム解析は目覚ましい発展を遂げました。次世代シーケンサーは高速で大量のDNA配列を読み取ることのできる装置で、ゲノム解析速度向上や解析費用の削減に寄与し、ゲノムがより身近なものになりました。

1人あたりの
ゲノム解析コスト^{※2}

2019年 8月

942ドル

技術の進歩により2001年9月の9,526万ドルから大きく低下した。

ゲノム編集

ゲノムは解析するだけでなく編集までできる時代となりました。ゲノム編集では「遺伝子組換え」では難しかった、狙い通りに遺伝子を切断したり置き換えたりすることが可能になりました。2012年には従来よりも簡単に低コストの「クリスパー/キャス9」と呼ばれる技術が登場しゲノム編集技術が急速に普及しました。

再生医療

病気や事故などで失われた体の組織を再生することを目指した「再生医療」の分野では「iPS細胞」の実用化が期待されています。2012年には世界で初めてヒトの皮膚からiPS細胞を作成した京都大学の山中教授らがノーベル生理学・医学賞を受賞しました。iPS細胞はあらゆる細胞に分化することができる万能細胞と呼ばれ、難病の解明や新薬の開発などに向け研究が進められています。

遺伝子治療

遺伝子治療の中でも、体を守る免疫の仕組みを利用する「CAR-T細胞療法」と呼ばれるがん治療法が注目されています。患者の体内から細胞を取り出し、遺伝子を改変してがんへの攻撃力を高め、再び患者の体内に戻すことでがんを治療する方法です。2017年には米国で白血病の新薬として製造販売が世界で初めて承認され、現在は他のがんへの応用などの研究が進められています。

Healthcare History

単語から読み解く
ヘルスケア市場

過去

未来



オンライン診療

日本では2018年よりオンライン診療に保険が適用されるようになりまし。スタートしたばかりのため規制も多く、まだ広く普及しているとは言えないものの、医療インフラが不十分な地域の患者や慢性的な疾患で定期的に通院している患者の利便性を高めることに繋がると考えられています。今後は5Gによる高速大容量の通信により、現在よりもリアルな診断が可能になるとの予測もあり、普及の後押しとなるかもしれません。

手術支援

外科医の手では不可能な複雑かつ精密な動きが可能な手術支援ロボットが開発されています。また、実際の手術の勉強のために臓器をVR（バーチャルリアリティ・仮想現実）などで再現し立体視化するシステムも登場しました。

AIの活用

医療分野におけるAIの活用が進んでいます。

画像診断

例えばAIによる画像診断では膨大な画像をスピーディーに診断するとともに、人の目では見逃しやすい病変もチェックすることができます。これにより医師は、実際の診察や、治療の選択肢を患者に示すという本来の役割に専念できるようになります。

データ分析

AIがウェアラブル端末に蓄積されたデータと病院診察記録などを統合・分析することで、一人ひとりに合うサービスを安価かつ効率的に提供することが期待されています。

世界のデジタルヘルスケア
関連市場投資額ランキング
(2019年上期)^{※4}

1位	データ分析	11億ドル
2位	オンライン診療	9億ドル
3位	医療アプリ	6.3億ドル
4位	健康維持・促進	3.4億ドル
5位	予約関連サービス	3.4億ドル

データ分析やオンライン診療、医療アプリへの投資が際立つ。
※主に世界のベンチャーキャピタルの投資額

ヘルスケア関連向け
AI事業の収益予測^{※5}



2016年以降の予測値
AI事業の収益は右肩上がりの成長が見込まれる。

※1.出所：EvaluatePharma「World Preview 2019, Outlook to 2024」※2.出所：National Human Genome Research Institute ※3~5.出所：statistaを基に三菱UFJ国際投信作成

50 ネタになる クソリの話

01.がん

2018年に京都大学の本庶特別教授が日本人の死因1位*であるがんの治療法に貢献したことでノーベル賞を受賞したことは記憶に新しいのではないのでしょうか。同氏の研究成果を活用した、がん細胞などにより抑制された免疫力を回復させる治療薬の代表格として、米プリストル・マイヤーズズクイブ社と小野薬品工業が発売する「オプジーボ」が挙げられます。

02.糖尿病

高カロリーな食生活や運動不足などが要因となる糖尿病。経済成長などに伴い新興国を含み世界的に患者数が増えています。2045年には7億人*まで増加すると予想されています。実は、糖尿病の治療に用いられる「ヒトインスリン」は世界初のバイオ医薬品といわれています。今後は治療薬に加え、テクノロジーの活用による予防などが注目されます。

03.アルツハイマー

高齢化の進展に伴い、アルツハイマー病は深刻な社会問題となっています。そんな中、2019年にバイオジェンとエーザイが治療薬「アデュカヌマブ」を米食品医薬品局（FDA）に承認申請する予定であると発表された大きな話題となりました。承認されれば、早期アルツハイマー病を対象とする世界初の治療薬となります。

*出所：厚生労働省「平成30年人口動態統計月報年計（概数）」の概況

*出所：国際糖尿病連合「9th Edition 2019 of IDF Diabetes Atlas」

※裏面の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご覧ください。※上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。